

浜の活力再生広域プラン

1 広域水産業再生委員会

組織名	浜名地区広域水産業再生委員会
代表者名	会長 吉村 理利

広域委員会の構成員	浜名地域水産業再生委員会 (浜名漁業協同組合、舞阪本所、雄踏支所、白洲支所、村櫛支所、気賀支所、新居支所、鷺津支所、入出支所、浜松市、湖西市) 静岡県漁業協同組合連合会 静岡県（水産振興課、水産技術研究所）
オブザーバー	

*再生委員会の規約 別添

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	静岡県浜松市、及び湖西市の浜名湖周辺地域
	(浜松市) シラス漁業者 43 経営体、採貝漁業者 396 名、 袋網漁業者 62 名、タキヤ業者 30 名 ノリ養殖業者 52 名 (湖西市) シラス漁業者 14 経営体 採貝漁業者 197 名 袋網漁業者 35 名 タキヤ業者 55 名

*策定時点で対象となる漁業者数

2 地域の現状

(1) 地域の水産業を取り巻く現状等

浜名湖周辺地域から構成される浜名漁業協同組合は、昭和40年に浜名湖周辺の17漁協が合併し、舞阪地区の本所と7地区に支所を置く体制になっている。浜名湖内の漁業と遠州灘の漁業が相互に依存しながら成り立っている。

浜名湖は周囲120km、面積65km²で、浜松市と湖西市に囲まれている。湖の南端は幅200mの水路（今切口）で遠州灘と繋がっており、全国的にも多くの魚種に恵まれた汽水湖である。

遠州灘は起伏が少なくシラスの好漁場となっており、舞阪地区と新居地区はシラス漁に重点を置いた漁業が行われ、静岡県でも最大の水揚地となっている。背後地には加工場が立地し、水揚げされたシラスは全て釜揚げやちりめん加工されている。

シラス漁は年間約100日操業しており、休漁日には大半の漁業者は浜名湖内でアサリ漁を行い、国内屈指のアサリ産地として、漁業所得の安定に寄与している。

平成26年度の水揚げ量は、シラスが2,855tで約15億円、アサリが4,127tで約15億円と、両者で浜名地区の総漁獲量の78%を占めている。

舞阪、新居を除く浜名湖奥部では、雄踏、村櫛、白洲、気賀の4地区の荷捌き所を雄踏に集約し、鷺津と入出地区の荷捌き所を鷺津に集約して小型の定置網である角立網に

よる魚介類の集荷の簡素化に努めている。漁協合併に伴い、既に支所の荷捌所の統合が進められている。

また、浜名湖では6月頃から9月頃まで伝統漁業としてタキヤ漁が行われ、50隻85名が従事している。夜間、かがり火を頼りに一般の方が乗船し銚子でカニや魚を突いたりする漁法で、年間数百人の予約があり観光漁業として人気が高い。

シラスの漁獲量は経年変動が比較的少ないが、仲買人の減少や魚価の低迷が課題であり、シラスの高付加価値化、販路開拓、鮮度保持による漁業所得向上が必要となっている。また、舞阪地区と新居地区の荷捌き施設は老朽化が著しく、施設の改良についても課題となっている。

アサリ漁についても魚価の低迷、資源の減少、さらには後継者不足が課題となっている。現在、アサリの集荷は各支所で個々に行われているため、効率的な集荷を行うために集荷体制の見直しが必要である。

アサリ資源保護について、漁業者は、アサリの天敵であるツメタ貝の駆除や密漁監視パトロールを行っており、平成26年度からは静岡県浜名湖監視指導委託事業を受けて実施している。また、国、県の援助により、アサリ漁の組合員がネット内に砂利を入れて湖底に敷設し、資源回復活動を続けている。なお、シラス漁業者の多くがアサリ漁業に従事しているため、シラス漁業者にとってもアサリ資源は大きな関心事となっている。

しかしながら、アサリ漁業の安定にはアナアオサが大きな課題となっている。浜名湖内では、6月以降アナアオサが大量に生育し、腐敗すると湖底に硫化ガスが発生し、環境の悪化を招いている。湖内の主要魚介類に悪影響を与え、袋網漁業によるクルマエビ漁獲量は平成元年の約100トンから近年では約1トンまでに激減した。また、アナアオサは潮流の影響で浜名湖から遠州灘に流出すると、シラス漁の網に入り、シラスに混獲したり、シラス網が破裂することもある。

このように、アナアオサは浜名湖および遠州灘の漁業に悪影響を与えているため、漁業者はアナアオサの除去に積極的に取り組んでいる。今後、アナアオサを対象にした新たな漁業を創出して、アナアオサの商品開発とともに浜名地区における中核的な担い手を育成する漁業に発展させることに取り組む必要がある。

3 その他関連する現状等

地区の人口は、旧浜松市、引佐町、舞阪町、雄踏町で約12万人、湖西市7万人と約19万人である。湖西市は自動車関係、電気関係の工業地区で、旧浜松市の浜名湖の東側に面する地区は、館山寺を中心に観光業が盛んで、その他自動車関連の工場の他、花卉を栽培する農地も多く広がる。

浜名湖には、東名高速道路、国道1号線、新幹線、在来線と交通の大動脈が通過している。浜名湖奥の館山寺は観光地として知られ、また浜名湖南面にあたる舞阪地区は潮干狩りのメッカとして年間100万人以上の観光客が訪れる風光明媚な場所である。しかし、湖岸に流れ着いたアナアオサとアマモの腐敗臭が浜名湖の観光を敬遠させる原因にもなっている。

奥浜名湖地区では、雄踏と鷺津に角立網の漁獲物の集約を行うが、それ以外の村櫛、白洲、気賀、入出地区の荷捌き施設を海の駅構想に位置づけ活用していく。

4 競争力強化の取り組み方針

(1) 機能再編・地域活性化に関する基本方針

① シラス鮮度保持向上

- ・シラス漁で使用する氷について、従来の水道水から殺菌効果の高い次亜塩素水で製造し、シラスの鮮度保持向上と単価の向上、漁業者の所得向上を図る。

② アサリの資源確保と増殖

- ・漁業者が、砂利を入れたネットを一定期間敷設し、アサリ稚貝の定着効果を高めアサリの資源および漁獲量の増加を図る。
- ・区画漁業権漁場である水深1mほどのアオノリ漁場に張られたノリ網の下に、1センチ目合いの網を敷設し、アカエイやクロダイの食害を防ぎアサリの増殖を図る。
- ・漁業者が、アサリの漁獲制限の検討および密漁パトロールを実施する。
- ・漁業者が、アサリの天敵であるツメタ貝とアカエイの駆除を実施する。

③ 水産物の付加価値向上、販売力強化

- ・漁業者や漁協が、舞阪漁港えんばい朝市や湖西市きらく市、舞阪町観光協会と共同で行う弁天島浜小屋等のイベントに、地元魚介類を提供し消費者ニーズを把握するとともに、地元魚介類のPR、消費拡大、販売力強化、地産地消や魚食普及を図る。
- ・トラフグ以外でサバフグ等を一般家庭で扱えるような食材としてフグの刺身や唐揚げ等に利用することで、フグの普及と販売力を高める。
- ・駆除したアカエイやツメタ貝を活用した新商品の開発やノリの佃煮など、地元水産物の付加価値化を進め、販売力の強化を図る。
- ・アカエイの肝やツメタ貝の佃煮等の未利用魚を活用した商品を朝市で販売する。また浜名地区は毎日墓参りする風習から供花の需要が高く、浜松地方の特産物である花卉の栽培を行っている漁業者も多い。そこで、朝市で未利用魚商品とともに花卉を販売することで、集客力の向上および漁業者の所得向上を目指す。

④ 集荷体制の強化

- ・シラスは、特定の仲買人に入札されることが多いため、搬送に手間取り入札済みのシラスが競り場に滞る時間が長く、鮮度低下を招いている。そこで機械化により迅速に加工場へ搬送する体制を整備する。
- ・アサリの集荷を、現在の各支所8か所で行っている体制から、舞阪、村櫛、白洲、気賀、雄踏支所は村櫛支所に、新居、鷺津、入出支所は鷺津支所に集約し、2か所で行う体制とする。荷捌き所には、アサリを日射から守るための庇を整備し、また、アサリは海水で冷やすと鮮度が劣化するため、淡水を利用するための水道設備等を整備し、アサリの鮮度向上を図る。さらに、環境改善を図りながらアサリの魚価向上を目指す。

⑤ アナアオサの商品化

- ・アオノリの収穫は4月で終了する。6月からアナアオサが発生し、浜名湖には年間約4,000tが自生している。6月以降、シラス漁の盛期となるが、潮流により浜名湖から流出したアナアオサは遠州灘のシラス漁にも悪影響を与えるため、アナアオサ対策を実施する。
- ・アナアオサの採取を機械化で試したが効率が悪く、T字型になった鉄棒を利用し人力での採取が最も効率的であることから、漁業者等による採取訓練を行い、アナアオサ採取の普及を図る。
- ・採取したアナアオサは浜名湖岸で洗浄や乾燥などの処理を行うことが効率的であるため、湖岸近くのアオノリ養殖業者の用地を利用して、アナアオサの商品化を行い

漁業所得の向上を目指す。

⑥ 共同利用施設の活用

- ・昭和 40 年の漁協合併時に比べは組合員が減少しており、特に浜名湖奥部の支所での減少が大きいため、角立網の漁獲物を対象に、村櫛支所、白洲支所、気賀支所は雄踏支所に、入出支所は鷺津支所に集約している。そこで雄踏支所と鷺津支所以外の支所荷捌き所において、浜松市や湖西市が推進する海の駅構想として、漁業者が未利用魚などを加工し朝市などで販売し、地産地消による魚食普及を図る。
- ・海の駅構想として、活用されなくなった荷捌き所間を結ぶ舟運に取り組む。

(2) 中核的担い手の育成に関する基本方針

○中核的漁業者の位置づけ

個人・法人を問わず、漁業を将来的にわたり継続的に実施していく意思とその能力を有する者とし、漁業士会の会員を中心に、シラス漁業とアサリ漁業の主要漁業に従事する漁業者を主対象にして以下の基準とする。

- ①年齢基準：個人の場合は原則 55 歳未満。ただし、55 歳以上であっても 45 歳未満の後継者が確保されていること。
- ②所得基準：原則として償却前利益が確保されていること。将来にわたり経営の安定が見込まれると判断されること。

○漁業経営の安定化、操業の省力化、アサリ資源の増殖

- ・水産業競争力強化緊急事業に参画し漁業用機器等の導入によりコスト競争に耐えうる操業体制の確立を目指す。
- ・シラス船の漁業経営セーフティーネットの加入を推進する。
- ・漁業者間でシラス鮮度保持の均一化を図る。
- ・シラス船の船底清掃を励行する。

○アナアオサの新規漁業

アナアオサ採取を、浜名湖の環境改善と安定したシラス漁業、さらにはアナアオサの商品開発を図るため、漁業として発展させ、新規就業者の増加や漁業者の所得向上を目指す。

(3) 漁獲努力量削減・維持及びその効果に関する担保措置

<p>① 袋網漁業</p> <ul style="list-style-type: none">・ 操業区域：浜名湖内（ただし、航路として使用されている区域及び鉄橋下を除く）・ 操業期間：4月1日から翌年1月15日まで。 <p>② アサリ漁業</p> <ul style="list-style-type: none">・ 操業区域：浜名湖一円、殻長2cm以下は所持し販売してはならない。・ 操業期間：周年操業だが、漁協独自で年間休漁日を110日に設定。・ 漁獲制限：110kgだが、漁協独自で66kgに制限。 <p>③ シラス2そう船曳網漁業</p> <ul style="list-style-type: none">・ 操業禁止期間：1月15日から3月20日まで。・ 操業区域：遠州灘沿岸、総トン数10トン以下の船舶、御前崎市御前崎灯台南の線から愛知県境まで、但し知事が認めた10トン以上の船舶にあっては、太田川河口右岸線から、愛知県境までの地先海面。

(4) 具体的な取組内容

1年目（平成28年度）

取り組み内容	<p>① シラス鮮魚保持向上</p> <ul style="list-style-type: none">・ シラスの鮮度保持のために、弱電流を流して、次亜塩素化した水で製氷し、鮮度の変化を検証する。・ 窒素ガスを利用した製氷も同時に検討する。・ 最も効率的な氷の使用方法を全船で共有し、シラスの品質向上を図る。 <p>② アサリ資源確保と増殖</p> <ul style="list-style-type: none">・ アサリの安定供給に向けて、水産技術研究所の指導の下で資源管理の計画を策定する。・ 砂利をネットの中に入れて敷設する。・ ノリ漁場に1センチ目合いの網を湖底に張り増殖を図る。 <p>③ 水産物の付加価値向上と販売力強化</p> <ul style="list-style-type: none">・ 舞阪港えんばい朝市、新居町海湖館のカキ小屋、弁天島浜小屋で、未利用魚の活用につながるツメタ貝の佃煮、シラスのフリッター、浜名湖海苔の佃煮など、付加価値を付けた商品を販売する。・ トラフグは遠州地方の産物として、静岡県の「しずおか食セレクション」に認定されている。その価値の高さを生かして館山寺温泉協会と協力してPRを行う。・ 単価の安いサバフグも積極的に活用するため、水揚げを推進する。 <p>④ 集荷体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none">・ 運搬に手間取り、入札済のシラスが競り場に滞っているため、入港船が漁港内で平均20分ほど待機している。それを改善するため、市場での運用方法を仲買人と検討する。 <p>⑤ アナアオサの商品化</p> <ul style="list-style-type: none">・ 商品化に向け、原料となるアナアオサの採取について人員確保と技術講習会を行う。・ 海藻処理の豊富な経験を有する浜名湖ノリ漁業者とともに、アナアオサ商品化の事業化に向けた支援を行う。
--------	---

	<p>⑥ 共同利用施設の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜名湖奥部において、2支所（雄踏、鷺津）への荷捌き施設の集約にと もない、それ以外の4支所（村櫛、白洲、気賀、入出）の荷捌き所を 活用した海の駅構想での地産地消を推進するため、4支所の施設の活用 方法や販売体制等について、漁業者間で調整を行う。 <p>⑦ 中核的担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アナアオサ対策では、機械化による採取は機器の移動に支障が生じる ため人力による採取が最適である。そこで、採取に用いる船に金具を 取り付け、船を移動させながら採取を行う。採取の人員確保と技術講 習会を行い、新たな湖内漁業としてアナアオサ漁業の創出と漁業者の 所得向上を目指す。 ・ノリ生産者で豊かな経験を有する漁業者とともに、アナアオサ商品事 業化に向けた支援を行う。 ・漁船リース事業の活用による漁業の競争力強化と漁家経営の安定、漁 業機器等の導入による操業の省エネ化に取り組む。
活用する支援措 置等	<p>二枚貝資源緊急増殖対策事業 ② 水産業競争力強化緊急施設整備事業 ⑥ 新規漁業就業者総合支援事業 ⑦ 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 ⑦ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 ⑦</p>

2年目（平成29年度）

取り組み内容	<p>① シラス鮮度保持向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新居支所の製氷施設の改良を行い、シラスの鮮度保持と品質の向上を 図る。 ・次亜塩素化した製氷と窒素ガスを利用した製氷の効果を検証する <p>② アサリ資源確保と増殖</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサリの増養殖活動を砂利入りネット、1センチ目合いの網を使用す る。 ・ノリ漁場に1センチ目合いの網を敷設する場所を拡大するためにノリ 養殖組合との調整を図る。 ・海の駅にもとづく舟運の運用に関連して、航路浚渫にともない砂を湖 内に覆砂しアサリ増殖を促進させる。 <p>③ 水産物の付加価値向上と販売力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞阪漁港えんばい朝市、新居海湖館のカキ小屋、弁天島浜小屋で生シ ラスの販売による消費の拡大に努める。 ・海の駅にて観光客などを対象に浜名湖特産の魚介類を提供する。 ・トラフグは、静岡県「しずおか食セレクション」に認定されており、 その価値の高さを生かしてPRを行う。 ・浜名湖特産のノコギリガザミを地理的表示登録に向けて品質の向上 を検討する。 <p>④ 集荷体制の強化</p>
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・シラス入札の効率化や入札済のシラスの取扱いについて仲買人と検討を行う。 ・現在、婦人部の協力で行っているシラス籠の運搬作業の機械化を図る。 ⑤ アナアオサの商品化 <ul style="list-style-type: none"> ・アナアオサを食品加工するため、既成の洗浄機を改良した洗浄方法や、乾燥機の効率性や機能性について検討を行う。 ⑥ 共同利用施設の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・4支所（村櫛、白洲、気賀、入出）の荷捌き所において、農協（JAとぴあ）と連携して、水産物と花卉を含む農産物の販売体制を構築する。 ⑦ 中核的担い手の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・漁船リース事業の活用による漁業の競争力強化と漁家経営の安定、漁業機器等の導入による操業の省エネ化に取り組む。 ・漁業経営セーフティーネット構築事業に取り組む。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> 二枚貝資源緊急増殖対策事業 ② 水産業競争力強化緊急施設整備事業 ⑥ 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 ⑦ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 ⑦ 漁業経営セーフティーネット構築事業 ⑦

3年目（平成30年度）

取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ① シラス鮮度保持向上 <ul style="list-style-type: none"> ・舞阪魚市場の製氷施設の改善として機能水による氷を使用し、鮮度保持の向上に努める。 ② アサリ資源確保と増殖 <ul style="list-style-type: none"> ・砂利入りネットを敷設してアサリ稚貝を育てる。 ・ノリ漁場に1センチ目合いの網を張りクロダイ、アカエイ等の食害対策を行い、アサリの増殖を行う。 ・浜名湖内で干潟になるエリアの耕耘を行う。 ・アサリ漁場の輪採制やアサリの産卵時期の操業について検討する。 ・水産技術研究所の指導の下、試験的にアサリ垂下式養殖に取り組む。 ・アサリの発生状況を調査し、採捕数量の検討と再捕体制を確立する。 ・アサリの天敵であるツメタ貝の駆除を行う、 ・毎月、密漁監視パトロールの方法や課題などについて検討会を行う。 ③ 水産物の高付加価値化と販売力強化 <ul style="list-style-type: none"> ・舞阪漁港えんばい朝市と新居町海湖館でのカキ小屋、弁天浜小屋を更に発展させる。舞阪町観光協会と連携してカキ小屋を増設し、海の駅構想で開発した商品を販売する。 ・「しずおか食セレクション」認定による価値の高さを生かして、トラフグの販路拡大を図る。 ・道の駅にて浜名湖特産品を広く提供する。 ④ 集荷体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、シラス荷捌き場における競り後の運搬について仲買人と検討を行う。
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生関係に留意し、シラスの運搬形態を改善する。 ⑤アナアオサの商品化 <ul style="list-style-type: none"> ・洗浄機の改良を行い、異物除去の効率を高める。 ・色落ちを防ぐ乾燥方法を改善する。 ・アナアオサの粉末の商品化に取り組むとともに販売先についての検討を行う。 ⑥共同利用施設の活用、 <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅構想のもと、4支所（村櫛、白洲、気賀、入出）の荷捌き所を活用して、浜名湖の未利用魚であるツメタ貝の佃煮やアカエイの肝などの商品開発を行う。 ・海の駅構想のもと、支所間を結ぶ舟運の運営方法を検討する。 ⑦中核的担い手の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティーネット構築事業を活用し、漁業経営の安定に取り組む。 ・漁船リース事業の導入による経営の体質改善、漁業機器等の導入事業による省エネ化に取り組む。
活用する支援措置等	<p>二枚貝資源緊急増殖対策事業 ②</p> <p>水産業競争力強化緊急施設整備事業 ⑥</p> <p>漁業経営セーフティーネット構築事業 ⑦</p> <p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業 ⑦</p> <p>水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 ⑦</p> <p>新規漁業就業者総合支援事業 ⑦</p>

4年目（平成31年度）

取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ① シラス鮮度保持向上 <ul style="list-style-type: none"> ・引続き、機能水による氷を使用し、鮮度保持の向上を図る。 ② アサリ資源確保と増殖 <ul style="list-style-type: none"> ・引続き砂利入りネットを敷設しアサリ稚貝を育てる。 ・ノリ養殖場に1センチ目合いの網を敷設し、食害対策によるアサリの増殖を図る。 ・水産技術研究所の指導の下、アサリの垂下式養殖や資源状況の把握および採捕量の制限などについて検討を行う。垂下式養殖の適地、季節による効率化を検証する。 ・ツメタ貝等の駆除を行う。 ・毎月、密漁監視パトロールの方法や課題などについて検討会を行う。 ③ 水産物の付加価値向上、販売力強化 <ul style="list-style-type: none"> ・舞阪漁港えんばい朝市と新居町海湖館のカキ小屋、弁天島浜小屋を中心に、浜名湖特産の魚介類を仲買人と話し合い、販売強化の取り組みを行う。 ・ノコギリガザミは需要が高いため未成熟な小型サイズまで水揚げされる。しかし小型サイズは身入りが少ないので、価値のある水産物を提供するためサイズの検討を行う。また、地理的表示の申請・登録を行うとともに、出荷サイズの統一を図り価値向上を図る。
--------	--

	<p>④ 集荷体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラス競り場入札の手順の検討をする。 <p>⑤ アナアオサの商品化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異物除去にかかる検査機械としてX線の利用と赤外線利用の検討を行う。 ・アナアオサの粉末商品を開発し、販売に関係する漁業者への支援を行う。 <p>⑥ 共同利用施設の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用した情報発信を行い、観光業と提携し、漁協の支所を利用した海の駅を中心に、未利用魚の活用を図る。 ・海の駅構想のもと、支所間を結ぶ舟運の運営に取り組む。 ・海の駅である漁協施設で、浜名湖の未利用魚を中心に魚介類の販売強化を図る。 <p>⑦ 中核的担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサリ増殖実験を通して、漁業技術向上に意欲的な漁業士を育成する。 ・漁業経営セーフティネット構築事業を活用し漁業経営の安定に取り組む。 ・漁船リース事業の導入による経営の体質改善、漁業機器等の導入事業による省エネ化に取り組む。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>二枚貝資源緊急増殖対策事業 ②</p> <p>水産業競争力強化緊急施設整備事業 ⑥</p> <p>漁業経営セーフティネット構築事業 ⑦</p> <p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業 ⑦</p> <p>水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 ⑦</p> <p>新規漁業就業者総合支援事業 ⑦</p>

5年目 (平成32年度)

<p>取り組み内容</p>	<p>① シラス鮮度保持向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラス市場の衛生管理に伴う改善対策、鳥侵入防止対策、運搬方法の改善策、体制整備、合理化、機械化の対策を行う。 ・引続き、機能水の氷を使用し、鮮度保持の向上を図る。 <p>② アサリ資源管理と増殖</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、砂利入りネットを敷設しアサリ稚貝を育てる。 ・引き続き、ノリ養殖場に1センチ目合いの網を敷設し、クロダイ、アカエイ等による食害を防ぐ。 ・従来アサリ漁場ではない浜名湖奥部は栄養塩が豊富なため、垂下式によりアサリの実入りを高めているが、栄養塩が多く赤潮が発生する。そこで赤潮発生時に移動可能な体制を構築する。 ・水産技術研究所の指導の下、アサリの資源状態を検証し、再捕量の調整とアサリの天敵であるツメタ貝の駆除を引き続き行う。 ・漁業者による密漁パトロールを継続する。 <p>③ 水産物の付加価値向上と販売力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞阪漁港えんばい朝市、新居町海湖館のカキ小屋、弁天島浜小屋でJ A とびあと連携し生鮮食品や花卉類の販売を推進する。
---------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・浜名湖ではコノシロ、ボラ、ウグイなどの雑魚が多く漁獲されるが、廃棄されることが多いため、これらの水産物を安価で提供し、漁業者の所得向上と魚食普及を図る。 ・海の駅での未利用魚の開発を行う。市民のアイデア商品を募り、新たな食べ方を紹介する。 <p>④ 集荷体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサリの集荷場を現在の8か所から2か所（村櫛支所と鷲津支所）に集約し、仲買業者の集荷の合理化および魚価向上を図る。 ・競り場でシラスの運搬を迅速に行うため、入札済のシラスを搬送車に積み込むリフトを導入する。 <p>⑤ アナアオサの商品化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜名湖の特産品としてのアナアオサ粉末を商品化する。 ・完全異物除去によるアオサを製品化する。 ・引き続きアオサ漁業に向けたアオサの商品化と品質向上に取り組む。 <p>⑥ 共同利用施設の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新居のシラス荷捌き所に漁師食堂を整備する。 <p>⑦ 中核的担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティーネット構築事業を活用し経営の安定化に取り組む。 ・漁船リース事業の導入による経営の体質改善、漁業機器等の導入事業による省エネ化に取り組む。 ・漁協、漁業士および水産技術研究所が連携して資源管理と増殖に取り組み、関係者の増殖技術や資質向上を図る。
活用する支援措置等	<p>二枚貝資源緊急増殖対策事業 ②</p> <p>水産業競争力強化緊急施設整備事業 ⑥</p> <p>漁業経営セーフティーネット構築事業 ⑦</p> <p>水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 ⑦</p> <p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業 ⑦</p> <p>新規漁業就業者総合支援事業 ⑦</p>

(5) 関係機関との連携

静岡県水産技術研究所
アサリの資源管理の指導、資源保護の調査研究、資源動向の予測、販路拡大などの支援を依頼する。

(6) 他産業との連携

館山寺観光協会、弁天島観光協会、浜松市観光圏ビューロー、湖西市観光協会など観光協会と連携して、国の内外に魚食普及に努める。

4 成果目標

(1) 成果目標の考え方

①アサリ単価上昇 当地域は遠州灘でのシラス漁が中心であるが、浜名湖岸には多くの漁協支所があり、またシラス漁業者はシラス休漁日にはアサリ漁に従事している。そのため、浜名湖内のアサリ資源への関心は非常に高い。そこで、アサリの資源管理、漁場環境の改善および集荷体制の見直しによるアサリ単価上昇を目標とする。
②中核的漁業者数 漁業者の資質向上、中核的漁業者の育成に努め、それを目標とする。

(2) 成果目標

アサリ単価上昇	基準年 平成 26 年度	大銘柄（殻長 3.8 cm 以上） 400 円/kg 中銘柄（殻長 3.5 cm 以下） 320 円/kg
	目標年 平成 32 年度	大銘柄（殻長 4.0 cm 以上） 450 円/kg 中銘柄（殻長 3.8 cm 以下） 350 円/kg

中核的漁業者数	7 名	1 年目は 3 人、2 年目以降は 1 名以上を中核的漁業者として位置づける
---------	-----	--

(3) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>1 アサリ魚価向上</p> <ul style="list-style-type: none">・アサリの集荷を、現在の各支所 8 か所で個々に行っている体制から、舞阪、村櫛、白洲、気賀、雄踏支所は村櫛支所に、新居、鷺津、入出支所は鷺津支所にそれぞれ集約し、2 か所体制にすることで運搬コスト削減が魚価に反映される。・アサリ漁場の環境改善やアサリ資源の増殖に取り組むことで、アサリの高品質化が図られ、魚価上昇が見込まれる。・アサリの選別を厳格に行うことで、規格の統一、高品質化が図られ、単価の上昇が見込まれる。 <p>2 中核的漁業者</p> <ul style="list-style-type: none">・シラス漁業者 25 名、アサリ漁業者 20 名およびその他漁業者 3 名の計 48 名（うち漁業士 16 名）から、中核的漁業者を選定する。
--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産業競争力強化緊急施設整備事業	活用しなくなった漁協支所の荷捌き所を、水産物の加工や販売などを行うための整備。
漁業経営セーフティネット構築事業	燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	漁船の漁業機器の省力化、省エネ化を推進し、水産業の競争力強化を図る。
水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業	中核漁業者として位置づけられた漁業者が、所得向上に取り組むために必要な中古船又は新造船を円滑に導入できるように支援する。
新規漁業就業者総合支援事業	新規担い手の確保や中核的漁業者の育成
二枚貝資源緊急増殖対策事業	アサリ資源確保と増殖
未定	シラス鮮度保持向上 アオサ粉末加工品の商品化